

平成16年度厚生労働科学研究

(子ども家庭総合研究事業)

報 告 書

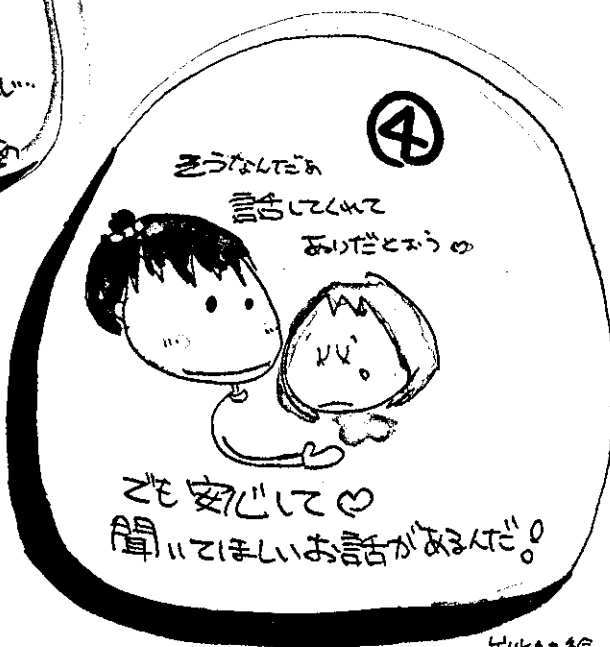
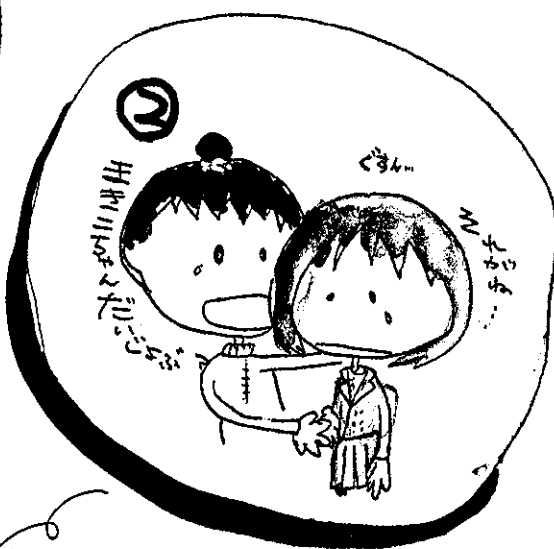
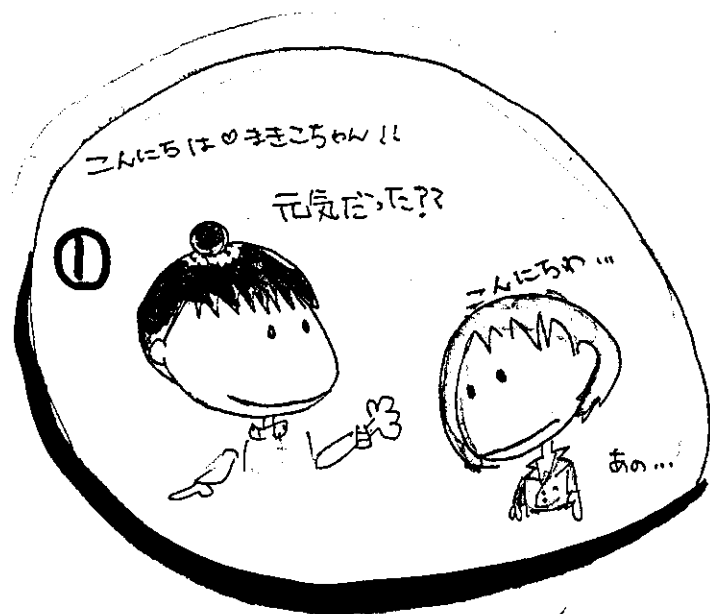
主任研究者 高 村 寿 子

性に関する思春期保健教育のためのマニュアルの開発と教材作成に関する研究

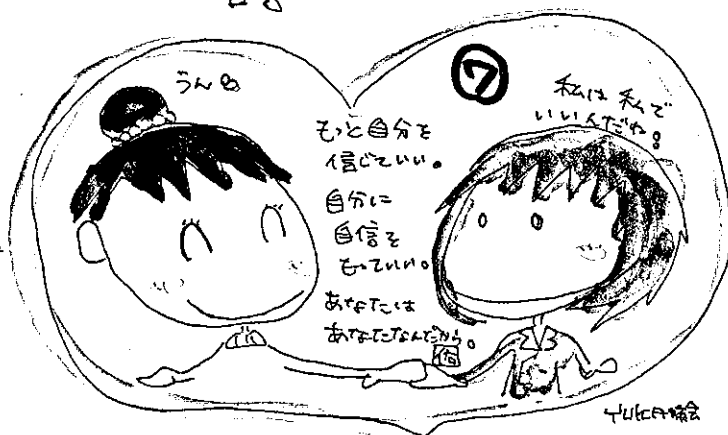
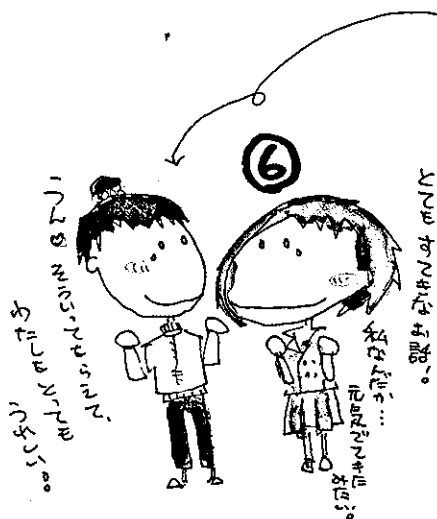
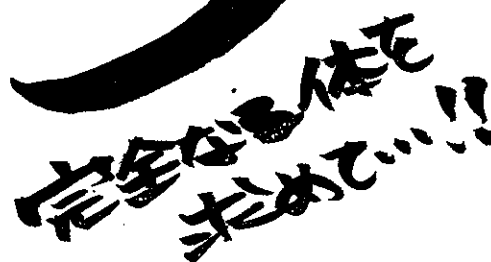
(16110201)

かづがえのない大切なもの♡

自治医大ヒューマン学部制作

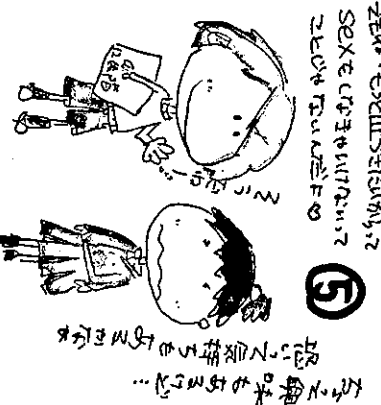
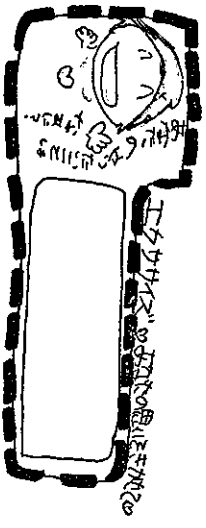
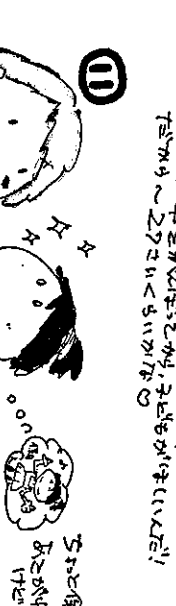
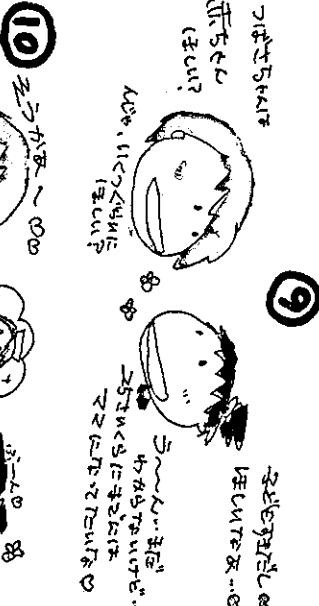
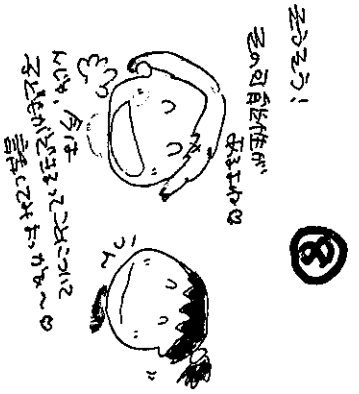
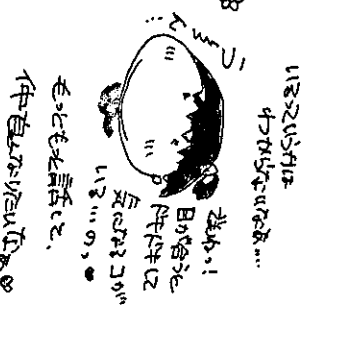
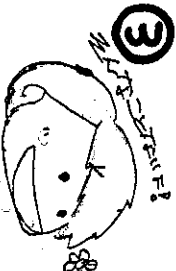
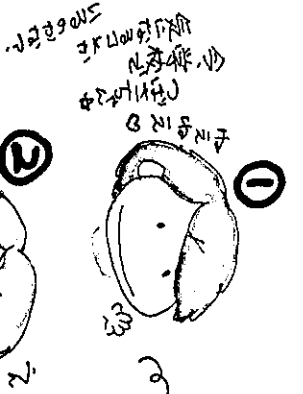


YUKA 絵



恋愛漫画の描き方

恋愛漫画の描き方 ③



恋愛漫画の描き方 ③



いまはいいに、
たふさんやたふことが
あるときに、あなたとできるなら、
ツバサちゃんはどう思う？

そんなと
ころじゃないから...
学校たてあるし...

エカサイデコ



もしもがたてたら...!!



ツバサちゃんの体は前より大き
準備が始まる時期なんだ。
もしSEXをしたら、赤ちゃんでき
つたり女王様でことが起こる
かもしれないね！

二つなあ...

ええ、女
王様
しつように
していい
ってこと？

そう思えることが
自分の未来に
つながっていく
と思うな！



うん
おたね！

15



うちら思春期が一番合
避妊の方法はピルなんだ。
でもピルって、
お医者さんに診てもらわな
いけないう
うちらにとってはあんまり
身近じゃないかもしくはないわ



そんなときは
コンドームがお勧めなんだ。
コンドームは性感染症(STD)
の予防に一番あてはまるんだ！
いちばん安全なセックスをおこな
はばりピル+コンドーム！



ピル★



★

- ★女の子が積極的にできる。
- ★体のくみもうまく利用して
妊娠を避けられる。
- ★1日1錠の習慣がわか
つばさちゃんも。
- ★産婦人科の診断が必要。

コンドーム★



★

- ★ゴムでできていてとても丈夫。
- ★ penis にかぶせて、精子が
女の子の体の中に入らないようにする。
- ★この方法が一番身近かな。
- ★コンドームは薬局やコンビニで売ってる。



16



SEXって、二人でやるものだよ！
だから...避妊のことは二人で一緒に
話し合おうよ。(自然なことじゃないかな？)

避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。
避妊のことは二人で話し合おうよ。



エカサイデコ



避妊、避妊方について...

444444

STI・STD・STD

自費医大のりず利信 8

① ② ③

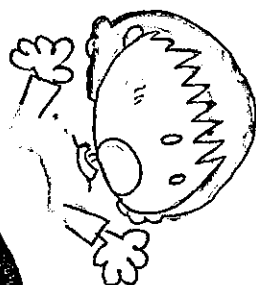
「世にSTIは...」
「世にSTDは...」
「世にSTDは...」
「世にSTDは...」

② その病受ていさか、
正しくSTIでいんだ。
～性感染症～

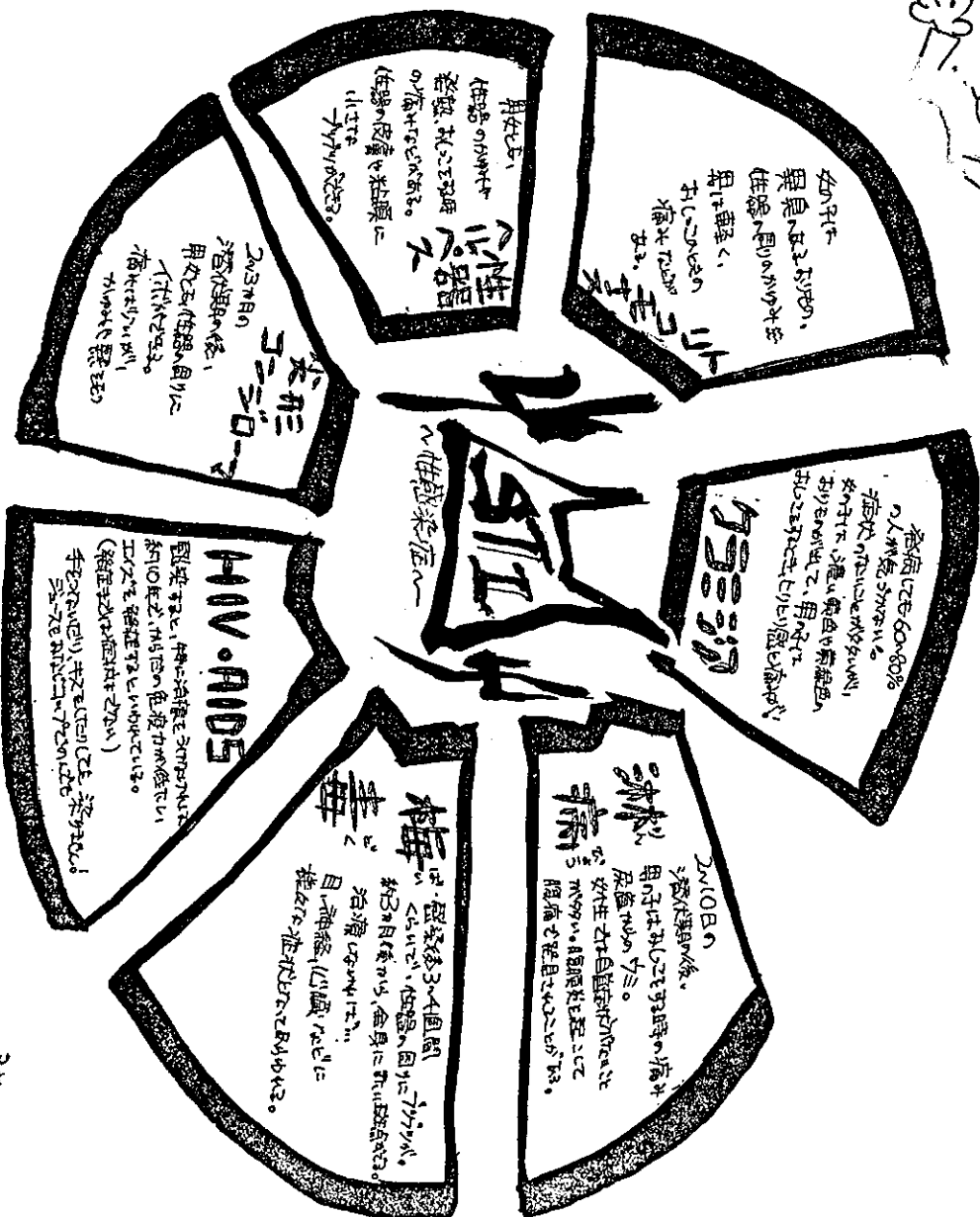
④ ⑤

「世にSTIは...」
「世にSTDは...」
「世にSTDは...」
「世にSTDは...」

「世にSTDは...」
「世にSTDは...」
「世にSTDは...」
「世にSTDは...」



③



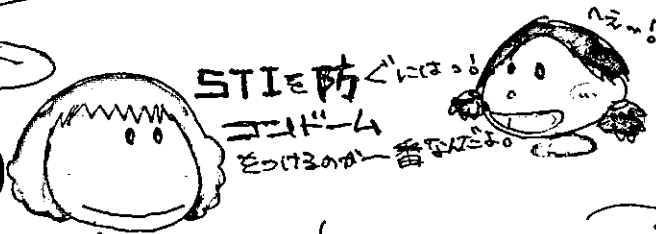
40代A * 森

⑤



みんな「SEX」って
聞いたことあるよね。防ごうと
するのがあるよ。

⑥



STIを防ぐには!!
コンドーム
をつけるのが一番だよ。

つけ方を説明するね!

精子は射精の前からモロモロとペニスの奥から
出ている。
だから、射精前につけなければいけなく、
って思わないで!! (笑)

必ず「つけてから入れる」こと!



①



勃起したペニスにコンドームをかかして
※爪でひかいたりしないように
気をつけて!!

②



コンドームを巻きあげる。

※この部分がホント!!

③



たがった部分を先ずき込みほうへ寄せて、
根元の余った皮をビュッと張るように!!

④



根本まで巻きあげて、完成!!

⑧

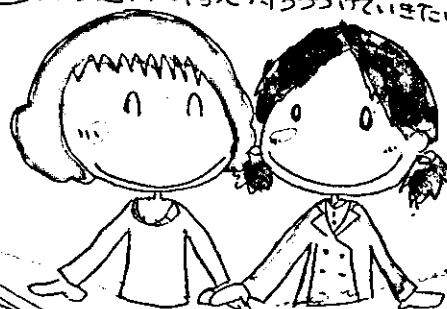
今日いろいろ話おいてね!!
わたし
自分をもっと
大事にしたいって
思ってる!!

そうだね!!



⑨

一生について考えたり語り合うことは
決して悪いことではないんだ!!
「お互いをおもひやりと大事にする」
こういう気持ち、ずっと持ちつづけていきたいわ!!



ゆめみ★絵

平成16年度厚生労働科学研究

(子ども家庭総合研究事業)

報 告 書

主任研究者 高 村 寿 子

性に関する思春期保健教育のためのマニュアルの開発と教材作成に関する研究

(16110201)

<目 次>

I. 総括研究報告

性に関する思春期保健教育のためのマニュアル開発と教材作成に関する研究

主任研究官 高村寿子 1

II. 分担研究報告

1. 思春期ピアカウンセリング講座の教材作成とその効果的普及に関する研究

分担研究者 前田ひとみ 5

青柳 宏

渡辺純一

高村寿子

研究協力者 石田登喜子

角田哲男

三橋博行

福田明菜

倭文奈央子

近藤佑圭

國府田理恵子

幕田美帆子

2. 思春期ピアカウンセリング活動支援システムの構築に関する研究

分担研究者 高村寿子 48

前田ひとみ

渡辺純一

研究協力者 石田登喜子

江角伸吾

山下友也

3. 思春期ピアカウンセリング講座の各種教材と使用方法に関する評価研究

分担研究者 中出佳織 59

青柳 宏

研究協力者 橋本充代

4. 男子思春期保健指導のためのマニュアル開発に関する研究

分担研究者 堀江重朗 65

研究協力者 熊本悦明

丸山 修

厚生労働科学研究補助金（子ども家庭総合研究事業）
性に関する思春期保健教育のためのマニュアル開発と教材作成に関する研究
（16110201）

主任研究者　高村　寿子　自治医科大学看護学部

本研究の目的は思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーションの普及に向け、思春期ピアカウンセラーの養成レベルを水準化するためのマニュアルや教材することにある。

まず、ピアカウンセラー養成講座で用いた全国共通レジメ、印刷媒体、ビデオ教材、ピアカウンセリング・ロールプレイ事例とその活用方法を、ピアカウンセラー養成講座ならびにピアカウンセラー養成者養成講座の受講者に対する質問紙調査と、養成状況のビデオ撮影からの質的授業分析評価を行った。その結果、各養成カリキュラムと方法は教育方法上すぐれた特質を持っているが、一定水準を保ったピアカウンセラー養成するためには普及版全国通レジメ、セクシュアリティに関する副読本、ピアカウンセリング事例展開を理解するためのビデオの作成が必要であることが示された。これらの教材を使用することによって、思春期ピアカウンセラーの水準化と、各地域や学校における効果的な性の健康を支える思春期ピアカウンセリングの普及が、展開の一助となると考える。

次に、思春期ピアカウンセラー自身に悩みとニーズ調査を行った結果、思春期ピアカウンセラーを支えるコーディネーターや地域・学校機関等の理解不足からパワーレスやバーンアウトに陥るピアカウンセラーが多く見受けられ、また自分たちの力量を高めていくフォローアップシステムや研修に対するニーズやパワーレスの予防や自分たちの視野を広げピアカウンセリング活動の質や幅を充実させることを目的に他団体との交流や情報交換を求めている。そしてそれは思春期ピアカウンセラーだけでなく、ピアカウンセラー養成者やコーディネーターも同様であった。

そこで思春期ピアカウンセラー、ピアカウンセラー養成者、コーディネーター、それぞれのパワーレスやバーンアウトを予防し、エンパワーメントされた活動を継続するためのサポートシステムとして、①ピアカウンセラー全国ネットワークとしての日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会（仮称）の立ち上げと②情報交換とエンパワーメントを図るためのホームページを検討し、作成した。

そして、ピアカウンセラー養成講座で活用されている教材と中・高生のニーズとの整合性を調べるため、養成講座受講者を対象に、自記式無記名式の質問紙調査を行った。その結果、受講群に妊娠・性感染症を身近に感じている者、相手とセックスについて話し合うことができる者が有意に多き、また、養成講座で用いられている教材及び方法は、対象者のニーズにほぼ合致していることが示唆された。

従来の性教育教科書は性器と性交を中心とした生物学的な知識に偏重しがちで、genderを含めた男性のありかたについての教育が希薄であった。このため、医学研究の内容をふまえた男子思春期ガイドラインの作成を企画した。

分担研究者

青柳 宏

宇都宮大学教育学部 助教授

中出佳織

北海道浅井学園大学人間福祉学部 教授

前田ひとみ

宮崎大学医学部看護学科 助教授

渡辺純一

財団法人 井の頭病院 看護師

堀江重郎

帝京大学医学部泌尿器科 教授

A. 研究目的

性に関する思春期保健教育の一方法であるピアカウンセリング事業の中心的役割を果たす、ピアカウンセラーやピアカウンセラー養成者のレベルを水準化するための教材と教育方法の開発と、彼らのパワーレスを予防し、エンパワーメントを図るサポートシステムを構築し、一定水準を保った思春期保健教育の効果的普及を図るためのシステムを開発することにある。更に、従来の性教育・思春期保健教育教科書は性器や性交などの生物学的な知識に偏重しがちで、gender を含めた男性のあり方についての教育が希薄であったので、学校現場で性教育に重要な役割を果たす養護教諭に役立つ男子思春期ガイドラインを作成することにある。

B. 研究方法

研究班は4班に分かれ、以下のような分担研究課題に取り組むと同時に、全体班会議で各班の調整・統合を図った。

1. 思春期ピアカウンセリングの教材作成とその効果的普及に関する研究
2. 思春期ピアカウンセリング活動支援システムの構築に関する研究
3. ピアカウンセリング教材に関する評価研究
4. 男子思春期保健指導のためのマニュアル開

発に関する研究

C. 結果および考察

1. 思春期ピアカウンセリングの教材作成とその効果的普及に関する研究

教材開発にあたって、先ずこれまでのピアカウンセラー養成講座で用いたテキスト、印刷媒体、ビデオ教材、ピアカウンセリング事例についてピアカウンセラー養成講座ならびにピアカウンセラー養成者養成講座受講者による評価を行なった。さらに4ヶ所で実施されたピアカウンセラー養成講座をビデオで撮影し、質的授業分析を行いカリキュラムの評価を行った。これらの結果と各地で実施されている思春期ピアカウンセリング講座のプログラムや印刷媒体などをもとに、到達目標の水準化の視点から、ピアカウンセラー養成講座のカリキュラムと使用する教材について再検討した。

その結果、ピアカウンセラー養成講座のカリキュラムと養成方法は教育方法上すぐれた特質を持っていることが示された。そして一定水準を保ったピアカウンセラー養成するためには普及版全国共通レジメ、セクシュアリティに関する副読本、ピアカウンセリング事例集と事例展開を理解するためのロールプレイビデオの作成が必要であることが示された。

思春期ピアカウンセラー養成で使用する教材については、①テキストおよび印刷媒体と②教材ビデオ及びピアカウンセリング事例集の二つの班に分かれて作成した。これらの教材を使用することによって、各都道府県で養成され始めた思春期ピアカウンセラーの水準化を図ることができ、各地域や学校における効果的な性の健康を支える思春期ピアカウンセリングの普及と展開の一助となると考える。

2. 思春期ピアカウンセリング活動支援システムの構築に関する研究

現在、思春期ピアカウンセラーとして活動している学生を対象に思春期ピアカウンセリングに対する悩みとニーズ調査を行った結果、思春期ピアカウンセラーを支えるコーディネーターや地域・学校機関等の理解不足からパワーレスやバーンアウトに陥るピアカウンセラーが多く見受けられること、またピアカウンセラー達の力量を高めていくためのフォローアップシステムや研修に対するニーズが高いことが示された。またパワーレスの予防や自分たちの視野を広げピアカウンセリング活動の質や幅を充実させることを目的に他団体との交流や情報交換を求めているピアカウンセラーが多いこともわかった。そしてそれは思春期ピアカウンセラーだけでなく、ピアカウンセラー養成者やコーディネーターも同じである。

そこで思春期ピアカウンセラー、ピアカウンセラー養成者、コーディネーター、それぞれのパワーレスやバーンアウトを予防し、エンパワーメントされた活動を継続するためのサポートシステムとして、①ピアカウンセラー全国ネットワークとしての日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会（仮称）の立ち上げと②情報交換とエンパワーメントを図るためのホームページを検討し、作成した。

3. ピアカウンセリング教材に関する評価研究

これまでにピアカウンセラー養成講座で活用されている教材と中・高生のニーズとの整合性を調べるため、養成講座を開催した地域の受講生及び非受講生を対象に、自記式無記名式のアンケート調査を行った。その結果、受講群では非受講群と比較して、妊娠・性感染症を身近に感じている者、相手とセックスについて話し合うことができる者が有意に多いことが明らか

になった。また、養成講座で用いられている教材及び方法は、対象者のニーズにほぼ合致していることが示唆された。今後も継続的にニーズ調査を行うことにより、対象者により有効な教材・方法を作成する可能性が示された。

4. 男子思春期保健指導のためのマニュアル開発に関する研究

従来の性教育教科書は性器と性交を中心とした生物学的な知識に偏重しがちで、genderを含めた男性のありかたについての教育が希薄であった。このため、医学研究の内容をふまえた男子思春期ガイドラインの作成を企画した。具体的には、日本泌尿器科学会で指導的な立場にある医師が、ガイドラインに必要と思われる項目について専門的な立場より執筆し、この原稿を基に、分担研究者と性教育に関心があり、現在活動を行っている非医師の有識者が、読者の立場に立って、内容を再構成し、イラストをつけてガイドラインとして教育現場で利用できる形に編集した。

遺伝子医学や生殖内分泌学などの知見を反映したうえで、成人男性としての sex と gender を認識できる内容を目標とした、思春期ガイドラインの概要を決定できたと考える。

D. 結論

本研究の結論として、

1. ピアカウンセラーおよびピアカウンセラー養成のための全国共通レジメ並びに教材の作成とそれらの活用方法の有効性が確認され、各養成レベルの水準化が図れるものと判断する。

また、思春期ピアカウンセラー、ピアカウンセラー養成者、コーディネーター、それぞれのパワーレスやバーンアウトの実態把握から、それらを予防し、エンパワーメントされた活動を継続するためのサポートシステムとして、①ピ

アカウンセラー全国ネットワークとしての日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会（仮称）の立ち上げと②情報交換とエンパワーメントを図るためのホームページを検討し、作成した。

2. その結果、健やか親子の新戦略の一つである、若者に焦点をあてたピアカウンセリング／ピアエデュケーション事業という思春期の性＝生の健康教育が全国で効果的に普及・展開されていくことが期待される。

3. これまで作成・活用されているピアカウンセラー養成講座用教材と、対象者である中・高校生のニーズとの整合性について、アンケート調査を用いて検討した結果、ほぼ妥当であることが明らかとなった。今後、継続的に対象者にニーズ調査を行うことにより、教材の有効性を維持する可能性も示された。

4. 従来の性教育教科書は性器と性交を中心とした生物学的な知識に偏重しがちなので、遺伝子医学や生殖内分泌学などの知見を反映したうえで、成人男性としての sex と gender を認識できる内容を目標とした、思春期ガイドラインの概要を決定できたと考える。その内容を踏まえて、学校現場で男子思春期保健指導に携わる養護教諭のために、保健指導のためのマニュアルを作成した。

E. 健康危機情報

無 し

F. 研究発表

1. 著書

無 し

2. 論文発表

無 し

3. 学会発表

- 1) 前田ひとみ, 青柳宏, 石田登喜子, 渡辺純一, 高村寿子: 思春期の性＝生の健康

教育(1)ーピアカウンセラー養成講座のカリキュラム並びに教材評価ー, 第24回日本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

- 2) 石田登喜子, 前田ひとみ, 青柳宏, 渡辺純一, 角田哲男, 高村寿子: 思春期の性＝生の健康教育(2)ーピアカウンセラー養成講座の教材開発ー, 第24回日本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

- 3) 前田ひとみ, 山下友也: 思春期ピアカウンセリングの普及に関する研究ーピアカウンセラーのサポートの現状と課題ー, 第14回日本健康教育学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

- 4) 渡辺純一, 前田ひとみ, 石田登喜子, 橋本充代, 高村寿子: 思春期の性＝生の健康教育(3)

ーピアカウンセリング活動支援システムの構築ー, 第24回日本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

- 5) 橋本充代, 中出佳操, 前田ひとみ, 石田登喜子, 高村寿子: 思春期の性＝生の健康教育(4)

ーピアカウンセリング手法による性教育受講生(中・高生)の方法及び教材に関するニーズ調査ー, 第24回日本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表予定

G. 知的所有権の所得状況

無 し

思春期ピアカウンセリング講座の教材作成とその効果的普及に関する研究

分担研究者	前田ひとみ	宮崎大学医学部看護学科
	青柳 宏	宇都宮大学教育学部
	渡辺 純一	財団法人井之頭病院
	高村 寿子	自治医科大学看護学部
研究協力者	石田 登喜子	福島県立医科大学看護学部
	角田 哲男	日光市民病院産婦人科
	三橋 博行	日本家族計画協会
	福田 明菜	とちぎ思春期研究会若者部会
	倭文 奈央子	とちぎ思春期研究会若者部会
	近藤 祐圭	とちぎ思春期研究会若者部会
	國府田理恵子	とちぎ思春期研究会若者部会
	幕田 美帆子	とちぎ思春期研究会若者部会

本研究の目的は思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーションの普及に向け、思春期ピアカウンセラーの養成レベルを水準化するための教材を作成することである。

教材開発にあたって、先ずこれまでのピアカウンセラー養成講座で用いたテキスト、印刷媒体、ビデオ教材、ピアカウンセリング事例についてピアカウンセラー養成講座ならびにピアカウンセラー養成者養成講座受講者による評価を行なった。さらに4ヶ所で実施されたピアカウンセラー養成講座をビデオで撮影し、質的授業分析を行いカリキュラムの評価を行った。これらの結果と各地で実施されている思春期ピアカウンセリング講座のプログラムや印刷媒体などをもとに、到達目標の水準化の視点から、ピアカウンセラー養成講座のカリキュラムと使用する教材について再検討した。

その結果、ピアカウンセラー養成講座のカリキュラムと養成方法は教育方法上すぐれた特質を持っていることが示された。そして一定水準を保ったピアカウンセラー養成するためには普及版テキスト、セクシュアリティに関する副読本、ピアカウンセリング事例集と事例展開を理解するためのロールプレイビデオの作成が必要であることが示された。

思春期ピアカウンセラー養成で使用する教材については、①テキストおよび印刷媒体と②教材ビデオ及びピアカウンセリング事例集の二つの班に分かれて作成した。これらの教材を使用することによって、各都道府県で養成され始めた思春期ピアカウンセラーの水準化を図ることができ、各地域や学校における効果的な性の健康を支える思春期ピアカウンセリングの普及と展開の一助となると考える。

キーワード：性に関するピアカウンセリング、思春期ピアカウンセラー養成、教材開発

A. 目的

我々は平成14年度・15年度厚生労働科学研究「ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究」によって思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーションに関する3つのマニュアル（①ピアカウンセリング・ピアエデュケーションの立ち上げマニュアル、②ピアカウンセラー養成マニュアル、③ピアカウンセラー養成者養成マニュアル）を作成した。その結果、思春期ピアカウンセラーの養成が全国各地で行なわれるようになってきた。

我々が作成したピアカウンセラー養成マニュアルを活用し、一定水準を保った思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーションが地域や学校で実施されるためには、ピアカウンセラーの到達レベルを水準化することが必須である。そこで、本研究の目的は一定の到達レベルに達した思春期ピアカウンセラーを養成するのに使用する教材を開発・作成することである。

B. 思春期ピアカウンセラー養成講座のカリキュラム並びに教材の評価

1. ピアカウンセラー養成講座のカリキュラムと教育方法の評価

思春期ピアカウンセラー養成の水準化の視点からピアカウンセラー養成講座で用いる共通レジメを作成した。（資料1）このレジメにそって実施されたピアカウンセラー養成講座（4ヶ所）をビデオで撮影し、カリキュラムと養成方法の評価の視点から質的授業分析を行なった。

本ピアカウンセラー養成講座では、ピアカウンセラーとは何よりも、カウンセラー自身の「エンパワーメント」が目的であるということを、養成の基軸にすえておこなわれている。そして、この「エンパワーメント」の考

え方の徹底は、養成講座において受講生自身の「エンパワーメント」が実現されていく方法によっていえる。受講生は、自らが本養成講座においてエンパワーされる体験を通して、他者（カウンセラー）のエンパワーメントを援助するとはどういうことかを体得していることが示された。受講生自身が「エンパワーメント」を体験できるのは以下の5つの特質によるといえる。

（1）受講生の自己認識・自己開示の重視

本養成講座では、受講者自身の自己認識・自己開示がほとんど全てのステップで求められているといえる。自尊感情をチェックする等の活動だけでなく、エクササイズの中では自分自身の悩みを開示する等、絶えず自分を見つめ、自分を表現・表出していくことが励まされている。例えば、もし妊娠したら、という問いに対して自分を見つめた学生は、それまで「もし妊娠したら」という問いそのものを自分に問うたことがなかったことに気づき、さらにその原因は、「自分の回りの環境が自分を怖がらせていた」等の気づきをもたらす。

このように、本養成講座では、他者の心に関わっていくために、まず受講生自身が自分自身を認識すること、また開示できること重視している。そして、このような自己認識・自己開示が各ステップにおいて繰り返しておこなわれていくことで、カウンセリングにとって重要な自分自身の心の動きをモニターするスキル、また他者の心の動きに合わせてカウンセリングをすすめていくスキルを体得することができる。また、このような自己認識・自己開示によって、カウンセリングの際に、無自覚に自分自身の心の問題にカウンセラーを巻き込んでしまうことを自覚的に避けることができる。

そして、このような自己認識・自己開示は、まさに受講生自身が「エンパワーメント」を

体験する基盤となると言える。

（２）体験的教育方法

本養成講座では、全てのステップで、スキル・知識を獲得していくために体験的な教育方法がとられている。

その際、本要請講座では、エクササイズを実践する等の体験をする前に必ず十分なガイダンスと先輩ピアによるシミュレーションが行われ、また体験した後では必ず他の受講生に向けて感じたこと・意見を言う等のシェアリングがおこなわれている。即ち、ガイダンス→先輩ピアによるシミュレーション→体験（エクササイズ、話し合い等を含む）→シェアリングといった流れが徹底され、唯のひとりよがりの体験に終わらず、課題意識をもって体験（エクササイズ）に取り組み、必ずそれについて省察することがおこなわれている。

また、本養成講座では、学術的な知識を専門家としてガイダンスする者と、その知識をふまえてエクササイズをシミュレートしていく先輩ピアが連携していく方法がとられている。この方法によって、受講生は、ガイダンスによって提示された知識やスキルをスムーズに実践、体験していた。

また、受講生は、自分自身の悩みや普段疑問に思っていること等を、この体験的エクササイズの中に持ち込むことを通して、自らが「エンパワーメント」の体験をしていると言える。繰り返すように、このような自らの「エンパワーメント」の体験は、後に今度はカウンセラーの立場にたってカウンセラーがエンパワーしていくことを援助する原体験となる。

（３）受講生の「感情」の重視

本養成講座が、上に述べた特質を実現しているのは、本講座が受講生の「感情」を何よりも重視した方法によっているからである。

例えば、本養成講座では、受講生が、ゆったりとした空間の中で、自分が感じていることをゆっくり言葉にし、その上で他の受講生

と関わっていくことが重視されている。

また、どのようなテーマに関しても、一人一人の多様な意見を聞いていくことを徹底しておこなっていくことで、受講生は他者の多様な感情によりそいながら、あるテーマに関する知識を身につけていくことができる。また、このように即断をつつしみ、多様な感情、意見によりそっていく経験は、やがて高校生に対してピアカウンセリングを行う際に、高校生の感情をゆったりと受けとめていくための原体験になると言える。

（４）知識の伝達と価値観の模索（探求）

本養成講座では、ピアカウンセリングに関する知識、スキルを体験的に学習、獲得するだけでなく、ピアカウンセリング、セクシュアリティ等に関わる学術的な知識を多様な教材を活用しながら正確に伝えることも行われている。さらにまた、セクシュアリティ等に関する知識を正確に伝えると同時に、例えば性に関わる価値観を受講者一人一人が模索、探求していくこともおこなわれている。例えば「性」の特質として「生殖性」、「快楽性」、「連帯性」の三つがあることを伝えながらも、個人として「性」をどのように捉え、価値づけていくかを、一人一人の受講者が模索、探求していく方法がとられている。このように、本養成講座では、知識の正確な伝達をふまえた上で、価値観の領域については一人一人の受講者が自分自身で模索、探求していく方法が徹底されていると言える。

しかしまたその際、一人一人の価値観の模索、探求が独りよがりなものに陥らないように、集団の中で自分自身の価値観を見つめ直していくことが同時におこなわれている。そして、その上で、最終的に受講生は、性に関わる価値観は一人一人ちがっていてよい、という自己と他者の価値観に対する尊敬・尊重を獲得していく。

（５）受講生の実践力と創造性の開発

本養成講座では、最終的に受講者自身がグループで、ピアカウンセリングのための実施計画を立て、実践（発表）をおこなう。その際、受講者は、本講座で獲得された知識、スキルを実践的に活用すると同時に、受講者自身が創造的にテーマを考え、計画、実践するように求められる。

本養成講座が一貫して、受講者自身の自己認識・自己表出を促し、そのことで受講者自身の「エンパワーメント」の体験ともなっているため、最後のステップにおいて、受講者は創造的にテーマを考え、計画、実践することが出来るようになる。即ち、本講座において、受講生は、カウンセラーとしての実践力を身につけると同時に受講者自身の創造性をグループワークの中で協同的に開発していると言える。

以上の分析結果から、本養成講座のカリキュラムと養成方法は教育方法上すぐれた特質を持っていると判断できる。

2. これまで使用した教材の評価

思春期ピアカウンセリングの教材作成にあたって、これまでのピアカウンセラー養成講座において使用してきたテキスト、印刷媒体、ビデオ、ピアカウンセリングの事例を日本家族計画協会主催の思春期ピアカウンセラー養成講座受講者28名とピアカウンセラー養成講座受講者28名に評価してもらった。その結果、現在使用している教材に対してはピアカウンセラー養成講座受講者の多くが満足していることがわかった（図1、図2、図3、図4、図5、図6）。またピアカウンセラー養成講座受講者の満足度も全般的に高かったが、ピアカウンセリングスキルの中の感情に関わる項目については他の項目よりも満足度が低く（図7、図8、図9）、「具体的な事例集があるとロールプレイが展開しや

すい」といった意見もあった。

これまでにピアカウンセラー養成にたずさわってきた養成者に対してピアカウンセラー養成講座やピアカウンセリング実践で使用したテキストおよび各種教材を調査した。その結果、表1に示すような印刷媒体、事例、ビデオなどの教材が使用されていることがわかった。また養成にあたっての問題点として「ピアカウンセリング編で用いる事例について複数の事例が必要である」、「ピアカウンセラーは看護学生、医学生が多いために妊娠や出産など性に関する知識として専門性が高くなりがちであるが、医療以外を専攻する学生にも理解できるような内容の選択が難しい」「ピアカウンセラー養成として用いる妊娠・出産のビデオの選択が難しい」といったように性に関する知識の内容、教育方法、教材の判断・選択が難しいことがあげられた。

以上の結果から、一定水準を保ったピアカウンセラー養成するための教材としてテキスト、セクシュアリティに関する副読本、ピアカウンセリング事例集と事例展開を理解するためのロールプレイビデオの開発が必要であると考え、作成にあたった。

C. 思春期ピアカウンセリングにおける教材開発

1. テキストおよび印刷媒体作成

1) テキストの作成

ピアカウンセラー養成のための普及版テキストを作成するにあたっては、従来ピアカウンセラー養成で教科書として用いてきた松本清一監修、高村寿子編著「性の自己決定を育てるピアカウンセリング」（1999年小学館発行）を到達目標の水準化の視点から再検討し、ピアカウンセラー養成マニュアルとカリキュラム展開の実際等を加えたテキスト「思春期の性の自己決定を支えるピアカウンセリン

グ・マニュアル」を作成した（表2）。

2) 印刷媒体の作成

セクシュアリティに関する副読本の作成にあたって対象者、内容、構成を検討した結果、以下のような結論に達した。

対象者については、性教育に対する社会的な動向から高校生に配布することはさまざまな問題が発生する可能性が予測されること、また高校生を対象としたピアカウンセリング講座で高校生に配布することになると経費等がかさむことが考えられるために、今回はピアカウンセラー養成時に使用する目的で作成することとした。ただし副読本の一部を抜粋してパンフレットを作成するなどして、高校生にも有効活用できるような内容を検討することとなった。

作成にあたっては、ピアカウンセラー養成のプログラムに準じた内容、順序性を考えて作成する必要がある。そこでピアカウンセラー養成としての共通レジメにそって、内容の検討を行った。その結果、表3に示す内容についてイラストを活用しながら、分かりやすくポイントが一目でわかるように工夫して作成した。

2. 事例集並びにビデオ教材作成

1) 事例集の作成

本研究での事例とは、ピアカウンセリングを実際に展開している一場面を取り上げた逐語録的なもので、ピアカウンセリングを行う際のスキルや諸注意などをわかりやすく理解するためのものである。

従来、養成講座の現場において、こういった事例を実際にシミュレーションで、受講生に見せることにより、より具体的でわかりやすいという評価を得ており、今回の調査でも同様の結果が得られた。そこで、これまで使用していた事例を集め、内容を再度吟味し、事例集としてまとめた。

今回作成した事例集ではピアカウンセリングの8つの誓約の各々について、「誓約を守らない例」と「誓約を守った例」とを比較して紹介した（8つの誓約の中の「感情と向き合う」に関しては、「守った例」のみ）。そして、感情についての理解を深めるために、ピアカウンセリングの「感情と向き合う」スキルのステップにそって深めた事例を紹介した。そして、小集団を対象としたピアカウンセリングに関しては「もしも妊娠したら…」というテーマでグループディスカッションをしたときの事例を作成した。（資料2）

2) ビデオ作成

事例に関するロールプレイでは先輩ピアカウンセラーの果たす役割は大きい。しかしピアカウンセリング養成において、先輩ピアカウンセラーの不在によってシミュレーションを実演できない場合や、事前・事後の学習のための教材として、前項で作成した事例集をシナリオとしたビデオを作成した。

ビデオ教材の利点としては、文章だけではわかりにくい、言葉のニュアンスや表現の仕方、また、言語だけではない、非言語的な対応などがビジュアル化できる点である。

D. 結論

本研究によってピアカウンセラー養成のためのテキスト並びに教材を作成したことによって、ピアカウンセラー養成レベルの水準化が図れるものと判断する。その結果、健やか親子の新戦略の一つである、若者に焦点をあてたピアカウンセリング／ピアエデュケーション事業という思春期の性＝生の健康教育が全国で効果的に普及・展開されていくものと考えられる。

本研究は単年度の研究であったため、作成した教材についての評価を行うことができなかったことが本研究の限界である。

E. 健康危機情報

なし

F. 研究発表

1. 著書

無 し

2. 論文発表

無 し

3. 学会発表

- 1) 前田ひとみ, 青柳宏, 石田登喜子,
渡辺純一, 高村寿子: 思春期の性=生の
健康教育(1)ーピアカウンセラー養成
講座のカリキュラム並びに教材評価ー,
第24回日本思春期学会学術集会, 2005,
8月, 発表予定
- 2) 石田登喜子, 前田ひとみ, 青柳宏,
渡辺純一, 角田哲男, 高村寿子: 思春期
の性=生の健康教育(1)ーピアカウ
ンセラー養成講座の教材開発ー, 第24回日
本思春期学会学術集会, 2005, 8月, 発表
予定

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

表1 これまでにピアカウンセラー養成講座で用いられていたテキストおよび各種教材

1. ピアカウンセリング編

項 目	教 材
グランドルールの説明	グランドルール（プリント）
ピアカウンセリングとは ・ ピアとは何か ・ 思春期ピアカウンセリングとは何か	テキスト
ピアカウンセリングの基本概念 ・ 基本前提 ・ 基本的定義 ・ 基本理念 ・ ピアカウンセラーの役割 ・ ピアカウンセラーの道具	セルフエフィカシー（プリント） セルフエスティーム（プリント）
ピアカウンセリングの8つの誓約	8つの誓約（ポスター） 事例
アクティブリスニングⅠ ・ 基本的向き合い方 アイコンタクト・姿勢・態度・沈黙 ・ オープン・クエスチョン ・ パラフレーズ	
アクティブリスニングⅡ ・ 感情と向き合う 感情の種類・感情の明確化・感情の対処 ・ 要約・統合スキル	エクササイズ用（ポストイット、マジック、模造紙、セロテープ） 感情のプロセスを含んだ事例
コ・カウンセリング演習	振り返りシート（プリント）
小集団を対象としたピアカウンセリング	小集団のピアカウンセリングシミュレーション用シナリオ 小集団での活動の意義とカウンセラー（ファシリテーター）の役割（プリント）
仲間意識を高めるエクササイズ	私達ここが似ているね（プリント） 仲間探し（プリント） 誕生日行列 人間知恵の輪 フルーツバスケット
自己理解・他者理解のエクササイズ	私は何の花？あなたは何の花？（プリント） ジョハリの窓（プリント）